

contents

・新病院長の挨拶
・診療科紹介

・H30年4月就任教授紹介
・第3回医療連携フォーラムのお知らせ



編集：杏林大学医学部付属病院
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel 0422-47-5511（代表）
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>

◆新病院長の挨拶

この4月から岩下光利先生の後任として病院長を拝命いたしました。専門は整形外科、中でも脊椎脊髄外科や骨粗鬆症を中心に診療してまいりました。これまで多くの患者さんをご紹介いただきまして、この場を借りて御礼申し上げます。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

医師の働き方改革が社会問題となっている中、当病院は医師の「変形労働時間制」や「勤務時間の管理の電子化」など、種々の改革を行っております。地域医療を守るという観点から、救急医療、土曜日の外来診療、土曜日午後のMRI 枠の拡充など、継続的に良質な医療を提供したいと考えております。

また、今年も近隣の医療機関との「連携フォーラム」を秋に予定するなど、「顔の見える連携」、「患者さんに信頼される連携」を、さらに推進するつもりでおります。効率的な地域医療を実践するため、皆様のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



病院長 市村 正一

診療科紹介

◆精神神経科

当科では、「こころの病」を治療の対象としています。具体的には、多摩地区で唯一の大学病院本院の精神神経科として、うつ病、双極性障害、不安症、統合失調症、睡眠障害、摂食障害、認知症など精神疾患全般の診断および治療をオールラウンドに行っています。当科では、患者さんのこころの状態を、生物学的（脳や身体の異常の有無）、心理学的（個人のストレスやライフサイクルの問題など）、そして社会的（家族関係、職場や学校の環境など）な視点から総合的に判断し最善の医療が提供できるよう心掛けています。

特徴としては、各種の研究会や勉強会を定期的に行い、教育機関として地域の精神科医療のレベルアップに貢献していること、多摩地区や都内西部の単科精神科病院や関連診療所との連携を強化し、難治性気分障害や治療抵抗性統合失調症の診断・治療に力を入れていること、妊娠中や身体合併症を有する精神科患者さんの治療を積極的に受け入れていることが挙げられます。

今後も地域医療のニーズに応えるべく努めてまいります。



◆小児外科

当科は、新生児、小児の一般外科、泌尿器科、婦人科です。腹部外傷、異物誤飲などの救急医療、先天性食道閉鎖症、先天性小腸閉鎖症などの新生児の手術、急性虫垂炎、精巣捻転、卵巣腫瘍捻転等の緊急手術、鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、停留精巣、膀胱尿管逆流などの一般外科手術、Hirschsprung 病、鎖肛、総胆管拡張症、悪性腫瘍等の小児外科疾患手術を行っています。

特に生命の危機となる、腸回転異常症をはじめとした絞扼性イレウス患児の診断、治療にはできるだけ早期の診断と治療を目指しています。

火曜日午後に“便秘外来”を行っています。小児の便秘症には原因不明のものも多く、その治療は薬（内服薬、漢方薬、座薬、浣腸）だけにとどまらず、食事や生活習慣、精神面でのフォローなど多岐にわたり、個々に合わせた最適な治療法を見つけていく必要があります。看護師、保育士、栄養士も参加して多職種連携の外来となっています。



■ 平成 30 年 4 月就任教授紹介



消化器・一般外科
あべ のぶつぐ
阿部 展次

杏林大学医学部 卒 博士（医学）
東京女子医科大学、聖隷浜松病院、東京理科大学生命化学研究所等を経て、平成 15 年杏林大学着任

消化器疾患の内視鏡治療と腹腔鏡下手術を中心に診療を行っています。外科医療の守備範囲は広大ですが、個々の患者に見合った質の高い低侵襲な医療を提供できるよう尽力してまいります。

またリサーチマインドを持った探究心あふれる次世代の外科医を育てるための努力と実践を行って参ります。引き続き皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



消化器・一般外科
さかもと よしひろ
阪本 良弘

東京大学医学部 卒 博士（医学）
癌研究会付属病院、国立がん研究センター中央病院、東京大学医学部附属病院を経て、平成 30 年杏林大学着任

肝胆膵領域の外科治療を安全に遂行するためには肝胆膵外科医による正確で安全な手術はもとより、消化器内科医による内視鏡的治療、放射線科医による画像診断や IVR 治療、麻酔科医との密な連携、病理医による正確な診断、腫瘍内科医との集学的治療、他メディカルスタッフとの協力の全てが重要です。

色々お世話になるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



泌尿器科
ふくはら ひろし
福原 浩

東京大学医学部 卒 博士（医学）
東京大学医学部附属病院分院、ハーバード大学マサチューセッツ総合病院フェロー、東京大学医学部附属病院等を経て、平成 30 年杏林大学着任

ロボット支援手術、腹腔鏡手術などがんの低侵襲手術、尿路結石に対する内視鏡手術を中心に診療を行っております。質の高い医療を提供するためにも病院診療所間の連携・協力は不可欠であると考えております。

「あたたかい心のかよう、良質な医療」を患者さんに提供すべく、スタッフ一同、努力して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。



（臨床教授）
呼吸器内科
いし い はるゆき
石井 晴之

昭和大学医学部 卒 博士（医学）
都立駒込病院、ニューヨーク州立 Stony Brook 校 Winthrop University Hospital 研究員等を経て、平成 16 年杏林大学着任

呼吸器内科は肺癌、びまん性肺炎疾患（間質性肺炎）、気管支喘息、感染症など多岐にわたります。なかでも間質性肺炎や肺癌などは放射線科・呼吸器外科・病理科との共同連携体制により専門的な個別化医療を重要視しております。

これからより一層、医療連携を強化していきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

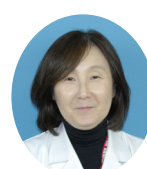


（臨床教授）
腎臓・リウマチ膠原病内科
ごまがた よしのり
駒形 嘉紀

東京大学医学部 卒 博士（医学）
東京大学医学部附属病院、帝京大学医学部附属病院等を経て、平成 22 年杏林大学着任

リウマチ・膠原病は複雑な免疫系の疾患ですが、その診療は日々長足の進歩をとげています。この領域の多摩地域における拠点病院として、質の高い医療を提供すべく努力しております。

地域の患者さん及び諸先生方のお役に立てるよう頑張りますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。



（臨床教授）
循環器内科
さかた このみ
坂田 好美

杏林大学医学部 卒 博士（医学）
聖ヨハネ会桜町病院、稲城市立病院等を経て、平成元年杏林大学着任

近年は心エコーなどの非侵襲的な画像診断を用いた心血管疾患の早期診断・治療介入に取り組んでおります。高齢者社会で増加している冠動脈疾患や大動脈弁・大動脈疾患などの診断・治療や、救急心血管疾患の受け入れなど、地域医療機関との連携をさらに強めていきたいと思っています。

引き続き皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



（臨床教授）
産科婦人科
たにがき しんじ
谷垣 伸治

慶應義塾大学医学部 卒 博士（医学）
慶應義塾大学病院、国立成育医療研究センター等を経て、平成 29 年杏林大学着任

ハイリスク妊娠の増加と多様化するニーズにお応えできるよう、チーム医療を推進します。妊娠前からの合併症評価及び産後ケアを始動する一方、出生前診断から小児外科手術までの一貫した管理と当科の売りである産科救急をさらに充実させてまいります。今後を担う人材を育成し、多摩地域の周産期医療を堅持すべく努力する所存です。引き続き御指導お願い申し上げます。



（医学部兼任教授）
精神神経科
なかじま とおる
中島 亨

東京大学医学部 卒 博士（医学）
東京大学医学部附属病院、帝京大学医学部附属溝口病院、国立精神・神経センター武蔵病院等を経て、平成 14 年杏林大学着任

睡眠障害の臨床を行ってきました。動物と人の睡眠の違いは意思の介入の有無にあり、例えば朝 4 時に起床する必要があるとき、私たちは時に目覚まし直前に覚醒します。つまり、人の睡眠覚醒は「現象」ではなく、「行動」の側面が強いのです。今後、睡眠覚醒行動、夢見現象とその制御、概日リズムの社会的同調等の機序を明らかにし、なお一層、睡眠障害の臨床の質を向上したいと思っています。



（臨床教授）
整形外科
もり たけし
森井 健司

慶應義塾大学医学部 卒 博士（医学）
慶應義塾大学病院、ハーバード医学校・マサチューセッツ総合病院研究員等を経て、平成 18 年杏林大学着任

整形外科は、人間が不自由なく歩行でき、身の回りのことを自分で行い、楽しいと感じることを自ら行えるという健康な状態を維持しつつ長生きするために、重要な社会的使命を持っています。

患者さんの快癒に尽力すること、学んだことを社会に還元し次世代に伝承することを行動の原点とし、診療・教育・研究に従事してまいります。

【日程変更】

第 3 回杏林大学医学部付属病院 医療連携フォーラム

日時場所：11 月 14 日（水）18 時 - 21 時 杏林大学病院 第 2 病棟 4 階 大学院講堂

プログラム：施設見学、講演会、懇親会など

詳細が決まりましたら、改めてお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしております。

患者支援センター 地域医療連携